南木曾町の統計資料

2024

なぎそまち

** 南木曾町の概況 **

【位置・地勢】

南木曾町は、長野県の南西部・木曾谷の南端に位置し、東は伊那谷の飯田市・阿智村、西は岐阜県中津川市、北は大桑村に隣接しています。

総面積は215.93km²で東西20km、南北15km、周囲70kmの山間地であり、木曾川とその支流の与川・柿其川・蘭川・坪川等により形成された狭い段丘上に、与川・北部・三留野・妻籠・蘭・広瀬・田立の7集落と農用地が細長く点在し、各集落の標高は約300mから約950mにおよんでいます。また、町の面積の9割は森林で占められており、そのうち約70%が国有林です。

町の中心部を流れる木曾川沿いには南北にJR中央線と国道19号が走り、東西には国道256号が伊那谷に通じています。隣県の中津川市中心部まで約20km、県内近隣市町村の木曾町まで約35km、飯田市まで約35kmの距離にあり、古来より伊那谷、木曾谷を結ぶ交通の要衝でした。

地質の大部分は、風化が進み脆くて崩れやすい巨晶花崗岩からなり、急峻な斜面が多く平坦面が少ない地形を作っています。また気候的には温暖ながら雨量が多く、年間降水量は多い年で2,500mmから3,000mmに達します。こうした温帯と寒帯が混じりあう植生の中で地質・地形・気候は、幾多の土石流災害を引き起こす一方で豊かな森林資源を育み、町は古くから木材生産・木工業を基幹産業としてきました。近年は国選定重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿や、国の近代化遺産に指定された桃介橋をはじめとする恵まれた文化遺産と、新たに開発された温泉の活用による観光産業が町の主要産業に位置付けられるようになってきました。

【沿革】

明治7年、与川（よがわ）村、三留野（みどの）村、柿其（かきぞれ）村が合併し、読書（よみかき）村が発足。同年、妻籠（つまご）村と蘭（あららぎ）村が合併し、吾妻（あづま）村が誕生しました。田立（ただち）村は山口村と合併・分離を経て、明治30年に田立村となりました。

昭和36年1月に、読書村・吾妻村・田立村の合併により南木曾町が発足し、今日に至っています。